

ぽけっと

葉山町子育て支援センターへ行くこう!!

乳幼児の一時預かり、
子育て相談もしています
親子でのびのび
楽しい子育てを

少子化・核家族化が進み、育児に悩むお母さんが少なくありません。そこで、地域ぐるみで子育てをサポートしようと、葉山町子育て支援センター「ぽけっと」が先月一日、オープンしました。耐震補強など旧町立保育園を大幅改修した支援センターは、日当たりのいい園庭をはじめ、広々としたプレイルームなどが整い、親子がのびのびと遊べます。オープン早々から多くの利用があり、子育ての拠点施設として、人気を集めています。



う願いに由来しています。

「ぽけっと」でできること

「ぽけっと」の事業内容は、大きく分けて四つあります。

その一つが「広場事業（あそびの広場）」で、二つ目が「一時預かり」、三つ目が「子育て相談」、そして四つ目が「ファミリーサポートセンター」の事務局です。

広場事業（あそびの広場）

利用できるのは、主に未就学の乳幼児とその家族。親子で来館し、センター内で自由に遊んだり、他の親子との交流も楽しめます。

センターが開いている時間帯なら、好きな時間に来館して遊ぶことができます。利用は無料です。

一時預かり

急な用事ができたが子どもを連れていくのは難しい、美容室や買い物に行きたい、たまには子育てから解放されて自分を取り戻したい…。そんな時に、理由を問わないでお子さんを時間単位で預かります。

対象になるのは、町内に住む生後二か月から就学前の乳幼児。食事やミルク、おやつ、着替えなどは持参です。利用料金は平日が一時八〇〇円（土曜日一〇〇〇円）。

定員（事前予約枠）は十人で、一か月前から予約を受け付けます（やむを得ない場合は、当日受け付けも可）。一時預かりは保育園などでもしていますが、ここでは「理由」を一切問いません。どんなケースでも預かるのが、センターの特徴です。

子育て支援センター「ぽけっと」は、NPO法人・葉山風の子が管理・運営をしており、保育士や保育サポーターなど現在のスタッフは十四人。

センター長の山浦彩子さんは、「子育て中には言葉に言い表すことのできない、いろいろな気持ちを味わうものです。楽しいことばかりではないかもしれませんが、どんな気持ちも大切にしていきたいと思っています。」

一人でおうちの中で子育てをしていると、不安や心配事を一人で抱え込むこともあるでしょう。お子さんの食事の量や体調、家事のことなど、特に初めての子育てで真最中の人には気になったらきりがないうことだらけではないでしょうか。

ときには、自分のためにお子さんを預けたり、ここで他のお子さんや親御さん、スタッフと接したり、親子でホッとくつろいだり、電話で相談してみたり、子育ては一人つきりではないのではありません。ということを感じていただきたいと思えます。

分かち合える相手がいる、理解してくれる人がいるということ。子育ての支えにもなり、喜びにもつながると思います。

スタッフも精一杯お手伝いします」と話しています。

子育て支援センター「ぽけっと」は、国の地域子育て支援拠点事業に基づいて新設されました。少子化や核家族化の進行など、子育てをめぐる環境が、昔とは大きく変わり、子育てで悩むケースが増えています。そのため、地域の支えの中で、安心して子育てができる環境づくりを推進するのが、この事業です。国のこうした方針を受けて、町では平成十九年度に「子育て支援センター開設準備委員会」を設置。葉山にふさわしい支援センターをつくるため、利用者の意見も参考にしながら、様々な角度から検討を重ねました。そして、一色の旧町立保育園を改修して、このほど完成・オープンしたのが「ぽけっと」です。施設名は、子どもたちの宝物や夢がいっぱい詰まった「ぽけっと」でありたいとい



駐車場
一色第2町内会
防災倉庫が目印。7台。

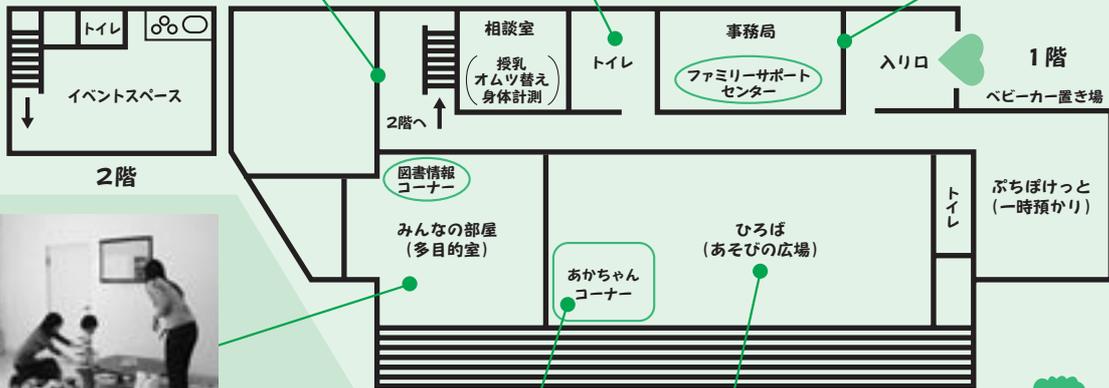


トイレ
小さなお子さん
用もあります。



受付
名簿に記入し名札
を作って入ります。
登録申込みも
ここでどうぞ。

セルフサービスで
コーヒー紅茶(50
円)をどうぞ。



みんなの部屋 (多目的室)
持ってきたお弁当やおやつを
どうぞ。親御さん向けの情報
コーナーもあります。

【利用案内】

場 所 葉山町一色1493-1
交通機関 京急バス「葉山大道」
下車3分
駐 車 場 センターから徒歩1
分のところに7台
開 館 日 火曜～土曜日 (日曜・
月曜・祝祭日・年末年始は休館)
開館時間 9時～17時
●葉山町子育て支援センター
☎FAX 876-4152
●ファミリーサポートセンター
☎FAX 876-4119



あかちゃんコーナー
床には毛布が敷いてあり、あかちゃんもリラックスして寝転べます。読み聞かせ用の絵本コーナーも。



ひろば
広い室内は床がコルク材。スタッフの手作りおもちゃも。子どもたちが元気よく遊び、お母さんたちは情報交換で笑い声が絶えません。



外遊び広場
広い園庭。手洗い場も完備。

子育て相談

子育てに関する悩みや心配事、疑問などについて、保育士など子育ての専門家が相談に乗ります。電話でも、直接センターに向向いても構いません。

ファミリーサポートセンター

地域において、お子さんを預かりたい人と預けたい人で構成する会員組織。センターでは、預かりたい会員(支援会員)と預けたい会員(依頼会員)をつなぐ橋渡し役として、両者の間の調整をします。

対象は、一歳から小学六年生までのお子さんで、原則、支援会員の自宅で預かります。利用料金は一時間七〇〇～九〇〇円。預かる時間など詳細は、センターと両会員の三者による事前の話し合いで調整します。利用にあたっては、支援・依頼の両会員ともに、事前の登録が必要です。「ぼけっと」では、このほかにも子育て支援団体などの育成・支援・連携をはじめ、関連情報の提供、子育てに関する講習会の開催など、各種の事業をしています。

「ぼけっと」こどもなとこ

子育て支援センター「ぼけっと」

は、京急バスの停留所「葉山大道」から歩いて三分ほど。旧町立保育園を改修して、白亜の美しい施設に生まれ変わりました。ちょっと中をのぞいてみましょう。

正面玄関を入って、すぐ左側が一時預かりの部屋。ここにはベッドなどが置かれ、保育士や保育サポーターなど専任のスタッフ二人が、預かったお子さんの世話をします。

その隣が「あそびの広場」。親子のためのプレイルームです。明るく広々とした室内には、すべり台や職員手づくりのダンボール製の長いトンネルなどの遊具があり、小さな子どもたちが大はしゃぎ。嬉々として遊ぶ子に目をやりながら、若いお母さん同士も話が弾み、交流を楽しんでいます。



自然光が入って明るい「ひろば」。大小の遊具、親御さんやスタッフ、お子さんたちがいても、まだ十分にスペースがあります。

室内の一角は「赤ちゃんコーナー」になっていて、ベビー用のベッドなどが置かれています。

プレイルームの隣は多目的室。図書・情報コーナーには、子育てに関する情報誌があります。また、お母さんがお子さんを一時預かりへ預けて一人で読書を楽しむこともできます。

また、持参した昼食やおやつを親子と一緒に食べたり、有料のコーヒー・紅茶（セルフサービス、一杯五〇円）などで喫茶のひと時を楽しんだり、飲食スペースとしても利用されています。廊下をはさんで多目的室の向かい側は、子育て相談用の部屋です。小ぢんまりとした個室で、室内にはソファアのほかにベビーベッドも。授乳やオムツ交換ができるため、お子さん連れでの相談もOKです。また個室なので、相談者のプライバシーも保護されています。

正面入り口のすぐ前は事務室。ここはファミリーサポートセンターの事務局も兼ねていて、支援・依頼会員の登録や利用申込の受け付けなどを行っています。問い合わせや相談の電話なども結構多く鳴ります。

そして、二階へ上がるとイベントスペースがあります。子育て支援に関するグループやサークルが活動する場として利用できます。

葉山歌壇俳壇

短歌

岡田 保子 選

◎目の前の車窓に気づき手を振りぬ笑まう美智子妃とすきな一瞬
 山崎みち子
 評 御用邸のある静かな町のある日の幸福なハブニング。皇后陛下とお呼びするの
 が正式だが、「美智子妃」としたところに、皇太子妃時代からの葉山への行啓
 と今回の僥倖の一瞬に出会えた作者の喜びが表れている微笑ましい一首です。
 夕水照り何時しか消えし内海に漁れる船の明かり際だつ
 近藤 紘
 亡き夫の落し文かや蜘蛛の囀に柿の病葉垂りて揺れる
 秋吉美代子
 乙女の日の悲しき記憶に戦死せし遺骨を胸に人、人の列
 金井 比佐
 喜寿過ぎは意識の外に何ごともなき顔をして日々を送らむ
 米田 宮子
 宵祭りの手足も頭もまだ動く八十路の踊りは「金メダル」と娘は
 石川サヨ子
 侘び助の葉うらにみつしり並びある汝が名は茶毒蛾 詫びつつ葬る
 渡辺 裕子
 賑い来し残りの寿司を少し食む九人家族の嫁たりし日 遙か
 高梨 芳子
 シヤボン玉風と連れ立ちどこへ行くここそどこかだれも知らない
 鈴木 桂子
 煙草やめ酒もやめたりこの頃はガムを噛みつつ時に軽た寝
 多羅 空竹

俳句 沼田葉櫻子 選

俳句 浅井 一志 選

◎見えて来る花のころや大花野
 石川 光子
 (評) 松虫草・桔梗・野萩・野菊・男郎花・女郎花・竜胆・水引など、秋草が色とりどりに咲き誇る原野。足の向くままに散策していると、自ずから花の心が見えってきたという詩情と、アイデアがよい。
 ケーブルの終着駅や初もみじ 石井富貴子
 (評) 今年になって初めて見た紅葉。山すそから峠へと登っていくケーブルカーから見渡す景色。だんだんと草木の色が変わりつつ終着駅では美しい紅葉に接し感動したのだ。ケーブルに乗った楽しさが伝わってくるようだ。
 新涼やたつぷり寝かせパンの生地 熊本 京子
 海の家跡広々と鳩遊ぶ 高梨 民雄
 葉を束ね大根しかと干されけり 近藤 紘
 やわらかに秋の陽浴びて道祖神 確井美津子
 無花果の硬きみどりや雨上がる 園田 義朗

◎西御門東御門跡秋の蝶
 伊藤 青嵐
 (評) 鎌倉は歴史の町なので昔からの地名が数多くある。この西御門、東御門も長い歴史を背負った土地の名として残るのみ。今は秋の蝶々が飛んでいる。静かなたたずまいの情景が見えてきます。
 海峽の湊鎮めむと蜻蛉群る 堀江規弥子
 (評) 秋の虫として代表的なものひとつとして蜻蛉がある。群れているといえれば赤蜻蛉に違いない。しかし、中七は意志の強い感じの表現である。意思の働きは、単なる写生ではなくなる。
 花桔梗母は離れに移るにふ 村上 権次
 ケーブルの終着駅や初もみじ 石井富貴子
 りんどうを添えし盛り花山の宿 熊本 京子
 帯締の真一文字や賜猛る 安藤とみ子
 誘はれし妻に鎌倉新能 多羅 空竹

◎特選 *共選

締切は、掲載希望月の前々月末日必着。はがき1枚に、一人3首か3句まで(当季雑詠)、住所、氏名、電話番号を書いて、企画調整課「葉山歌壇俳壇係」まで